

パートナー

市民活動はまちの未来を創造する

特集

能登と静岡をつなぐ
能登半島地震復旧支援
をおこなうESUNEの
活動を紹介

(2,3ページ)

人・まち・団体とつながろう！ 清水市民活動センター たなばた2024



夏の訪れとともに始まった清水市民活動センターの「たなばた2024」。ことしも飾りづくりを通して利用団体とつながりながら、まちをあげてのイベント「清水たなばたまつり」に参加しました。

センター内で飾りづくりを楽しむ七夕Café、団体の活動現場を訪れての出張七夕Caféのほか、多くの団体のみなさんに紙花づくりや願いごと短冊の協力をいただきました。

スタッフの気合が入った七夕飾りは商店街の方の協力で無事展示することができました。また、夜空に見立てた館内の天井にはみなさんから寄せられた350点の短冊が飾られ、来館者の目を楽しませていました。

ESUNEがつなぐ能登と静岡



NPO法人ESUNE 理事
齊藤 雄大さん

NPO法人ESUNE(エスネ)の齊藤雄大さんは、能登半島地震の復旧作業のために、3月から能登と静岡を何度も往復しています。月の3分の2を石川県輪島市三井町にある現地団体『のと復耕ラボ』(復耕ラボ)に滞在し、復旧に携わっています。齊藤さんに、ESUNEの取り組み、能登の現在の状況、今後の課題についてうかがいました。

能登と静岡をつなぐ架け橋として

NPO法人ETIC.(エティック)が幹事となるチャレコミというネットワークがあります。そこには災害関連の勉強会等を開催している災害支援チームがあり、ESUNEもそこに参加していて被災直後にチャレコミで能登の支援をしていくことになりました。その時にESUNEの理事会でも「静岡からできるかことがないか」を話し合いました。そこで、チャレコミ災害派遣制度を活用し、職員が現地に行って支援する方針となり、私が3月18日から能登に入りました。能登では、復耕ラボに滞在し、ボランティアのコーディネート、事務作業のほか、ボランティアと一緒に復旧作業に取り組んでいます。

静岡でも、能登を支援したい大学生や企業をサポートしています。今は、能登半島のために何かをしたいという学生が立ち上げた『こんぱす』という学生団体のサポートをしています。彼らは、多くの人に能登について知ってほしいと考えています。そのために、能登の特産品を販売する先としてマルシェの運営者を紹介したり、3月に開催された勉強会では、ゲストとして参加し、能登の現状を伝えました。他には、市民活動団体の静岡2.0さん、静岡ガスの職員さんから能登のために何かやりたいと相談を頂いた時は、復耕ラボを紹介したところ、実際にボランティアに来て頂きました。「能登のために何かしたい」という想いを持っている人や団体・企業を現地の団体とつなげています。



▲ 全国から様々な人が集まるのと復耕ラボ
奥能登を中心に様々な復旧作業に取り組む



▲ 6/22(土)のきたかいマルシェに出店し、奥能登地サイダー販売
8月には、現地訪問や他のマルシェにも出店予定

学生の想いからはじまった支援

ESUNEは、「新しくまなぶ、はたらく、いきるを静岡からつくる」というミッションを掲げ、大学生と若手の社会人が持つ持ち味や声を引き出し、豊かなまち・暮らしをつくるために、様々な主体と連携・協働して、プロジェクトの創出、コーディネート、人材育成、拠点運営等を行なっています。

これまで、大学や静岡市、企業等の様々なセクターと協働してきました。最近、静岡大学、アイザワ証券株式会社、静岡鉄道株式会社の協力を得て、2022年8月から静岡市駿河区小鹿に「みんなのチャレンジ基地 ICLa（イクラ）」を開設しました。大学生をはじめとした若者のチャレンジを後押する拠点であり、若者が希望を持って社会を冒険していくための場でもあります。今回サポートしている『こんぱす』も、ICLaを利用している学生の想いからはじまりました。

ボランティアの力は必要だけど・・・

能登ではまだ支援するボランティアの数が少ないです。加えて、現地の復旧に携わる解体業者等も少ないため、なかなか復興が進みません。まだ水が出ない地域もあり、そもそも人を受け入れる態勢が十分ではないです。特に奥能登地域が深刻です。奥能登は農業や漁業等の一次産業が中心の地域で、そもそも過疎化が進んでいた地域です。高齢化が進み、住人が少ない地域の全てを被災前のように戻すことは無理だとしても、今後こういった形で復興していけばいいのか考えていきたいです。



▲ 被災した蔵から荷物を取り出し作業。復旧にはまだ時間がかかる

現在関わっている復耕ラボは、民間のボランティアセンターになっています。ボランティアの受け入れ自体は復旧に欠かせないと思いながらも、結構な時間や労力がそちらに割かれてしまいます。復旧のために立ち上がった団体がボランティアを受け入れることが負担になり、本来の職能を発揮しづらくなっている現状に、もどかしさを感じることもあります。



▲ 学童保育が機能しなくなり、子どもの見守りをするボランティア（今は復旧済）

個人的に、ボランティアに行きたい人たちのサポートも必要だと感じています。特に、学生への金銭的なサポートが必要だと思います。ボランティアとして現地に行くには、交通費がかかります。東日本大震災の時と比べて学生の参加が低い理由として、学生の意識が変わったという意見を耳にしますが、むしろ経済的な理由が大きいのと思っています。学生への仕送り額は、この10年でどんどん減ってきていて、社会全体で余裕がなくなっています。

一昨年の台風15号の時は、県外の人からも多くの支援を頂きました。今度は、静岡から恩返しをしていく時だと思います。今後、静岡でもいつ災害が起きるかわかりません。こういった機会をきっかけに、平時から災害について考えていく場を作っていきたいです。

各団体への問合せ



NPO法人ESUNEのHP



こんぱすのInstagram



NPOワンポイント

静岡市市民自治推進課より

■ウェブ報告システムのお知らせ

NPO法人の申請や届出等について、オンラインで手続きができることをご存じでしょうか？内閣府の「ウェブ報告システム」を使えば、ご自宅から事業報告書の提出や役員変更の届出等を行うことができます。

「ウェブ報告システム」を利用開始するときは、ログインのための手続きが必要になります。

内閣府のポータルサイトに動画で紹介されていますので、ご確認ください。

内閣府ポータルサイト ログイン画面 <https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/users/auth/login>

※ログイン画面の下部にログイン方法を紹介する動画が掲載されています。

■様式・提出書類の変更について一部の提出書類について

令和5年9月から変更となっています。改めてご確認ください。

事業報告書の提出部数を2部から1部に変更しています！

役員の変更に伴う住民票の写しは省略可能です！

※就任承諾書に生年月日を記入してください。

※国内に住所を有し、住民登録の届出がある方に限ります。

※省略された場合は、静岡市が住民基本台帳法に基づき住民基本台帳ネットワークを用いて住所又は居所を確認します。



センターからのお知らせ

プロから学ぶスマホ撮影講座

HP、SNSがひと工夫でガラッと変わる

スマホで撮影する効果的な方法をプロのカメラマンから学びます。

ちょっとした撮影のコツを知って、きれいな写真を撮ってみませんか？

日 時：9月21日(土) 10:00～12:00

講 師：カメラマン 杉山勝利さん

内 容：講義・ワーク

スマホを使った撮影方法、スマホのカメラ機能をつかった簡単な編集等

※講師はiPhoneを使って講義をします。

対 象：撮影の基礎を知りたい、魅力的な撮影をしたい団体、個人

参加費：300円

定 員：15名

締 切：9月17日(木)

市民活動の世代交代を考える

あなたの団体の渡したいバトンは何ですか？

「世代交代」を課題に挙げる団体は、年々増加しています。講師の呉さんは、「市民活動は、情熱や思いから始まっているからこそ引き継ぐことが難しい」と言います。この講座で、「次に渡したいバトン」について一緒に考えましょう。

日 時：10月19日(土) 13:30～16:00

講 師：呉 哲煥さん

NPO法人CRファクトリー代表理事

内 容：事例や話し合いを通して団体の世代交代について考えていきます。

対 象：市民活動に取り組んでいる方、関心のある方

参加費：300円

定 員：25名

締 切：10月14日(月)



しみず・コレなに？ その63

終戦から79年を迎え、清水区内の「戦跡」も少しずつ消えたり形を変えたりしています。区内北矢部にあるこちらはその一つです。

戦時中、朝鮮半島から働き手として連れてこられた人たちが清水にもたくさんいました。厳しい労働条件の下で働き、亡くなった身寄りのない方たち94人が無縁仏としてこの地に葬られていました。

遺骨の安置堂が建てられ、碑文が建立されたりしましたが、2010年に遺骨は韓国に帰ることができました。その後納骨堂は取り壊され、現在はこの「朝鮮人遺骨安置堂慰霊碑」のみがひっそりと残されています。

情報画像提供 静岡市平和資料センター 山田勝洋さん

